

問題 153 と問題 154 は、次の記事に関するものです。

新刊『不思議の国のグプター飛行機は今日も遅れる』発売記念 朗読会

ようこそ不思議の国へ ―

3月22日、語学出版大手の株式会社アルクが同社の長い歴史においても初めての試みとなる、ある野心的なイベントを開催すると発表した。出版事業本部副本部長の新城宏治氏は、“これは史上初の試みであり、間違いなく TOEIC 市場初だ”と、興奮ぎみに語った。

一体、何が起きるといえるのか。アルクが4月10日に刊行する『不思議の国のグプター飛行機は今日も遅れる』の共著者、ミステリー作家の清涼院流水氏は言う。“TOEIC を苦しくて嫌なものだと思っている人が増えています。ところが、よく話を聞いてみると、彼らは「英語」が苦手なだけです。言い換えると、TOEIC というテスト自体が嫌いだとは限りません。実は、彼らは TOEIC の楽しみ方を知らないだけなのです。”

驚くべきことに、本書の初版には著者印税が発生しない。これも“事件”だろう。TOEIC 界を代表する巨匠として知られる共著者、ヒロ前田氏は真剣な表情で訴える。“この機会に、ひとりでも多くの人に TOEIC の楽しさを知って欲しい。心からそう願っている。本の価格を少しでも下げたかったから、われわれは印税の受け取りを拒んだ。”そんな異例の申し出をした著者ふたりによる前代未聞の朗読セッションが、このたび、開催される運びとなった。

153. 新刊について述べられていないことは何ですか。

- (A) 発売を記念する朗読会が開かれる。
- (B) 版元は語学用書籍を出版している。
- (C) 著者は初版の印税を児童施設に寄付する。
- (D) あるテストに関する雑学を収録している。

欧米では一般的な「朗読会」の慣習は、日本国内では知られていないが、TOEIC の読解問題には、「朗読会の告知」が出題されるらしい。まさに、今回のイベントは、その「リアルバージョン」であり、TOEIC 受験者は試験問題を生で体験することになる。

朗読会とは通常、著者が自作の一部を朗読することで、文章に込められた思いを読者がライブで感じ取るためのイベントだが、今回のセッションには、さらにユニークな仕掛けがあるようだ。本書の小説パートを執筆した清涼院氏がストーリーを朗読するのに合わせて、作中の TOEIC 雑学の解説を担当した前田氏が、なんと“解説を朗読する”らしいのだ。“このような形式のセッションは海外にも類例がなく、当日なにが起きるのは、絶対に誰にも予測不可能だ。私たちは、なにを目撃することになるのだろうか？”出版に詳しい事情通は驚きを隠さず、コメントに困っていた。

この朗読イベント「不思議の国へようこそ！」は、2013年4月7日(日)の18時30分から、紀伊國屋書店新宿本店8階イベントスペースで開催され、Ustream での中継も行う予定。参加費は無料。同店では、『不思議の国のグプター飛行機は、今日も遅れる』を4月3日から特別先行発売する。朗読会に関する詳細は、[Web サイト](#)で。

154. 人々はイベントに参加するために何をすべきですか。

- (A) メールを送る
- (B) 広告を見たことを伝える
- (C) チケットをダウンロードする
- (D) オンラインで情報を得る